

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 5月31日(土)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会1日目	Dコート	第4試合 13:30~									
<チームA> 土浦日本大学 茨城 3位		92 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>1Q</td><td>9</td></tr> <tr><td>2Q</td><td>20</td></tr> <tr><td>3Q</td><td>12</td></tr> <tr><td>4Q</td><td>18</td></tr> </table> 59		1Q	9	2Q	20	3Q	12	4Q	18	<チームB> 作新学院 栃木 2位	
1Q	9												
2Q	20												
3Q	12												
4Q	18												

【Bブロック】

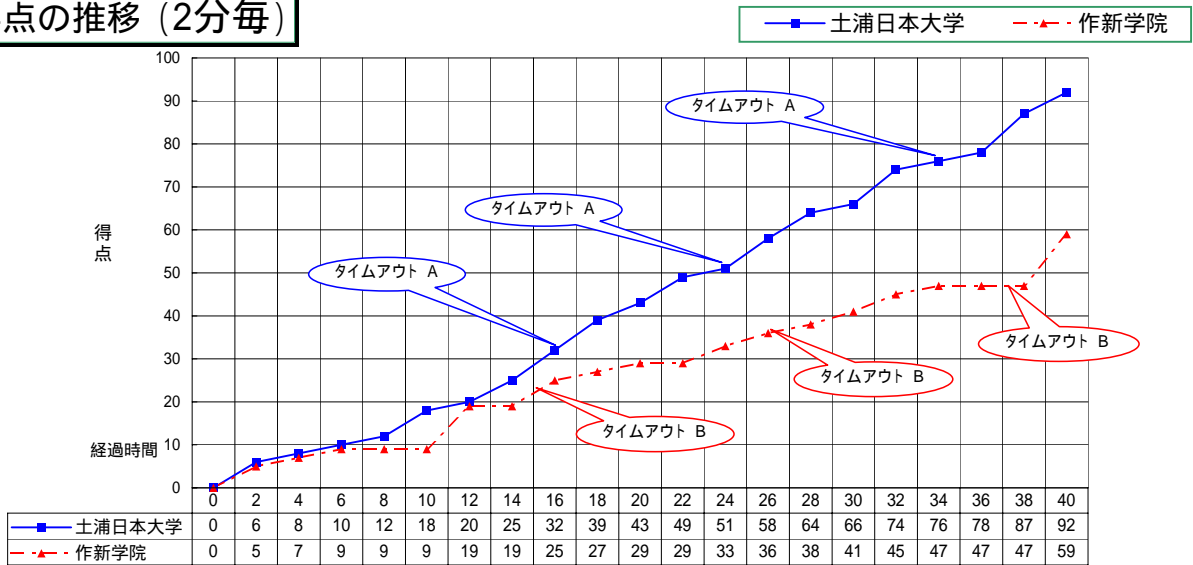
主審：佐藤 誠(千葉) 副審：手塚 清孝(山梨)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	浜田 将行	13	1	4	2	
	5	天田 琢也	4		2		4
	6	猪狩 承平	4		2		1
	7	岩崎 貴宏	16	1	5	3	1
	8	堀口 貴大	5		2	1	3
	9	嶋津 卓矢	7		3	1	
	10	飯島 洋	2		1		2
	11	國井 貴晃	3	1			
	12	中村 桂大	2		1		
	13	畠山 和	2		1		
	14	佐藤 恭平	9	1	3		1
	15	増淵 大輝	2		1		
	16	森山 雅仁	13		6	1	1
	17	安達 和貴	8		4		
	18	岡本 英俊	2		1		
コーチ		笠原 成元					
合計			92	4	36	8	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	大橋 理和	9		3	3	2
	5	神山 裕平	8	2	1		2
	6	岡 巧貴	7		3	1	2
	7	竹末 和史	20	4	4		4
	8	岡部 良一	4		2		
	9	齋藤 隆紘					3
	10	飯村 昭彦	4		2		1
	11	島田 勇介					
	12	室井 慎平					
	13	都竹 拓夢					
	14	安中 秀					
	15	関野 惣介	2		1		
	16	正親 秀章	5		2	1	
	17	平野 太一					1
	18	廣田 和					1
コーチ		渡邊 明美					
合計			59	6	18	5	

：スターター / ：出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数

得点の推移 (2分毎)



戦 評 記入者： 追田 康晴

両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタートする。作新のパス回しからのドライブに対して、土浦日大(以下土浦)は速いカバーリングでインサイドからの攻めを許さず、速攻でオフェンスリズムを作る。一方、作新は、ミドルシュートや3Pシュートのリバウンドに 岡、飯村がうまく反応しオフェンスの機会を得るが、プレッシャーディフェンスの前に苦戦を強いられ18-9で第1Pを終了する。
 第2Pに入り、作新はディフェンスリバウンドからの速攻で着実に得点を重ね、一時は1点差まで詰め寄った。しかし、土浦は 浜田の3Pシュート、フォワード陣のミドルシュート、そしてそれに対応したリバウンドで加点し作新の追撃を許さない。作新は、5:39 にタイムアウト。その後 神山の連続3Pシュートなどで追い上げるが、29-43の土浦リードで折り返す。
 第3Pに入ってから、土浦はディフェンスラインを上げて、ダブルチームからターンオーバーを誘発させ、得点を伸ばすことに成功する。作新は、このピリオド前半、ナンバープレイを試みるも、パスミスにより得点に結びつけられず5点に押さえ込まれたばかりか、逆に速攻で加点され引き離されてしまう。たまたまタイムアウトを取るが、オフェンスリバウンドからの得意パターンでリズムをつかんだ土浦の勢いを止めるには至らず、66-41でピリオド終了する。
 第4Pに入り土浦は、1・2年生を中心としたチーム編成で臨んだが、何度も24秒オーバータイムに追い込むなど勢いは衰えない。作新は、神山、大橋を中心にディフェンスリバウンドからの速攻で得点をしたいが、速い土浦の戻りに充分なオフェンスができず反撃の糸口を見いだせない。結局、終始優勢に試合を運んだ土浦が92-59で作新を下し、2回戦に駒を進めた。